



2024

No. 113
Autumn

Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス

世界のダンススポーツ事情

オールジャパン・ジュニア2024 in 高崎

ダンススポーツグランプリ in 富山&静岡

パリオリンピック報告



ブレイキンの新章がパリから開幕

—パリ五輪観戦報告—

(公社) 日本ダンススポーツ連盟 会長 布村 幸彦



2024年夏パリ五輪が有観客で開幕し、8月9・10日に新競技ブレイキンが初登場。会場はパリ都心、革命広場と称されるコンコルド広場=コンコルド・アーバンパークです。

エジプトからのオペリスク(尖塔)を中心に北はマドレーヌ教会、西はシャンゼリゼ大通りから凱旋門を臨み、東にはルーブル宮、南はブルボン宮(国民議会)とまさしくパリの要に位置します。

競技会場は仮設で収容人員推測3千人、急勾配故にステージが良く見え、観客の足踏み応援に仮設の足場がしっかり応じてくれます。一階フロアには円型ステージ、審判員のひな壇、監督・コーチや報道陣スペース、IOC・IF席などが配され、キャノピーという巨大テントに覆われています。二階の観客席は基本屋外で、オペリスクが間近に臨め、雨対策が必要です。室内の暗めの照明で選手にスポットを当てる日本の会場とは異なり、明るい屋外です。



9日のB-girl、10日のB-boyともに満席です。ブレイキンは

団をブレイキンで魅了しました。

また、4選手はパリ五輪を目指した仲間の思いを演技で体现し、未来を担うジュニア達にもしっかりバトンを渡してくれたと思います。9日夜、ジュニア選手の一人の「次は僕たちが受け継ぎます」という言葉が印象に残ります。

改めてレジェンド達から聞いたブレイキンの歴史を振り返ります。起源は1970年代初頭のニューヨーク、ストリートギャングのボスの提唱「縄張り争いは暴力でなくダンスで勝負」から「バトル」スタイルのブレイキンが誕生。

日本に伝わりストリートダンスを楽しむカルチャーが根付き聖地が生まれ、レジェンド達は「踊り終わったらキレイにして帰ろう。そうすれば次も踊らせてもらえる」とカルチャーを継いできたそうです。

2010年代半ば、2018ブエノスアイレスユース五輪への採用が決定し、第二幕の幕開け。レジェンド達の反応は「カルチャーとしてストリートダンスを楽しんでいるだけ」「何で突然スポーツにされるの?」「何で金メダルを目指さなければいけないの?」だったそうです。でも原点は変わらず、ブレイクダンス(ブレイキン)本部を立上げ、ダンススポーツとして選手強化に取り組み、ユース五輪の結果から「五輪でのリベンジ」を誓い、チーム一丸で頂を目指しパリ五輪まで走り抜きました。短期間での達成は誇れるものです。

ブレイキンの新章とは、パリでの大成功、ロスは不採用ですがブリスベンがあります。パリ五輪の幕間には、障がい者4人のブレイキンやバレリーナとブレイカーのコラボダン

世界のダンス スポーツ事情



公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟
副会長 山田 淳

パリ・オリンピックでAMI(湯浅亜実)選手の金メダルが決まった時、応援団席では目に涙を浮かべる人が何人もいました。特に日本から来たキッズが、しばらく大泣きで目をこすりながら、「僕も頑張る」と言っていた姿に、人の心魂を動かすスポーツの力と、オリンピックの価値を肌身で感じました。



旗手を務めたShigekixとフェンシングの江村選手(日テレNEWS NNN)

この金メダル獲得も凄いことですが、メダルにかかわらず私たちに夢を見させてくれた選手や強化スタッフの真摯な努力に感謝です。特に日本選手団の旗手を務めた我らがShigekix(半井重幸)選手の凛々しい姿や競技態度、インタビュー対応など本当に誇らしく思いました。

で観たぞ!」とも言われ、やはりオリンピック競技種目に入るって凄いことだなあと改めて実感しました。

「目指せ!オリンピック、国体参加」を掲げた昭和52年の日本アマチュアダンス協会(JADA)設立から約半世紀、世界ダンススポーツ連盟(WDSF)と協調しつつ、日本では風営法のダンス規制撤廃活動を通じた様々なダンスジャンルとの交流、組織改編、東京五輪2020追加競技種目へのダンススポーツ立候補活動、ブレイキン・カルチャーとの出逢いとそのスポーツ組織化、国体(国スポ)を目指す活動と日本スポーツ協会(旧:日体協)正式加盟等々、長い道のりの記憶が走馬灯のように頭の中を巡りました。

時の流れとともに、今回スタンダード/ラテン種目ではなくブレイキン種目になりましたが、ダンス競技がオリンピックスポーツとして成功した瞬間に、パリで聴いた「君が代」の荘厳な響きは本当に心に染みしました。

★ジャーマン・オープン 2024 ~伝統と変化~

伝統のジャーマン・オープンは世界最大のダンススポーツ大会であり続けており、各国役員やジャッジなどが一堂に会して交流する場となっています。今年はパリ五輪のために1週間ほど遅れ、ジャッジコンGRESに続き8月13日~17日の5日間にわたって熱戦が繰り広げられました。

ホテルに連結する3つのイベントホールにて同

舗も半分程度に減少し、かなりの赤字で苦しんだらしく、それから経費をかなり切り詰めているようですが、それにしてもすばらしいホスピタリティ。さすがドイツです。

今年の特筆すべき状況は、ロシアが原則出場できない状況で（国を変更して参加しているロシア人も若干いますが）、多くの決勝に中国選手が残って来るようになったことです。



VIPルームのビュッフェ風景



Grand Slam決勝ソロ競技、モルドバ選手として出場のチャンピオンAlexey Glukov & Anastasia Glazunova組

あるシニア部門では準決勝の半数以上が中



ジュニア大会表彰式

ジュブナイルやジュニアなど小さな選手たちが国を背負って競い、優勝すると国旗を肩に羽織ったり、目頭を押さえて国旗を振る応援団やコーチ陣に伝えながら表彰式に胸を張って出て行き、表彰台で国歌を歌う姿を見ると、この大会が子供たちにとって成長のための凄いモチベーションになっていると感じます。



国旗を振って大声援を送る選手団

ソロ競技も、昨年から増して今年は大変盛んになっていました。

この大会を目指して地元ドイツ以上に周辺のヨーロッパ各国から選手が集まり、特に旧ソ連の

なったことと、ブレイキンのオリンピック種目化もあり、中国での国をあげたダンススポーツ振興状況には目を見張るものがあります。

7月17日～21日の5日間にわたる中国・無錫(Wuxi)での「アジア・ダンススポーツフェスティバル」を観てきました。これは「ジャーマン・オープン」に追いつけ追い越せという勢いで、無錫市政府の肝入りで昨年からはじめたものです。一日の観客数としては何と云っても「東京オープン」が世界一ではありますが、最新のテクノロジーを駆使した映像、照明、音響設備を有する会場が提供されています。

中国を中心に世界的に超大型スクリーンやリボンビジョンなどが標準装備になりつつある中で、日本のスポーツ施設の近代化が望まれます。



近代化された会場での開会式風景

練習用のホールを挟んで2つのホールを同時並行で使っていました。48か国の国旗が掲揚されており、国際ジャッジがチェアパーソン含めて世界



標準になりつつある巨大スクリーン(左端下方は司会席)

これらの背番号が10番から1334番まで振られていました。

また、これらとは別に中国国内選手権もありました。「全国青少年体育舞蹈」という21歳以下、18歳以下、16歳以下、15歳以下、14歳以下、12歳以下、10歳以下、8歳以下の部門についてソロ、あるいはカップルでA級、B級といったカテゴリーの大規模な競技会です。その背番号が2000番から3424番まで振られており、プログラムを見るとこれらは中国全土の29の省と自治区から例えば、北京市舞蹈学院、四川电影电视学院、秦皇岛市体育舞蹈中等专业学校、广州体育学院流行舞蹈队、山东央才学院、北京体育大学、上海德艺舞蹈学院、大连国际舞蹈学校などなど、206の学校や倶楽部というような団体名で出場していました。

中国に於いて英才教育の場にダンススポーツがしっかり組み込まれて来ていることが分かりま

第19回オールジャパン・ジュニア ダンススポーツカップ2024 in 高崎

7月27日(土)・28日(日)／高崎アリーナ

後援:スポーツ庁／(公財)日本オリンピック委員会
(公財)日本スポーツ協会／高崎市／(公財)高崎財団

協力:(公財)ミズノスポーツ振興財団
(公財)スポーツ安全協会のスポーツ活動等普及奨励助成事業

全国でも暑い地域の一つとされる群馬県高崎市ですが、昨年に続き今年も全国から約500人のダンスが大好きな少年少女が集い、熱い戦いを繰り上げました。

1日目はソロ競技を中心に、チャイルドダンスやサルサ・メレンゲ、フリーダンスのチーム対抗戦が行われました。チーム対抗戦は、かつてジュニアチャンピオンだった石垣真衣さんが指導するスマイルジュニア(新潟県)が、澁刺とした踊りで優勝しました。

途中のインターバルでは、応援に見えていた全日本チャンピオンの大西大晶・大西咲菜組にサンバとチャチャチャを披露していただきました。また、大西組がTikTokで踊っているジャイビーを子供たちにレクチャーしていただき、チーム対抗戦の課題曲でもある「Bling-Bang-Bang-Born」に乗せてみんなで楽しく踊りました。最近ではテレビでも人気の大西兄妹と踊ることができ、子供たちは大喜びでした。2日目は溝口稔実行委員長の開会宣言にて始まり、引き続き布村幸彦JDSF会長の「ジュニア・ユースの多くの若い人に参加していただくことはJDSFにとって大切なこと。日ごろの成果を十分に発揮し、若い人の力でより元気で明るい社会にしていきたい」との挨拶がありました。



布村幸彦
JDSF会長の挨拶



開会宣言
溝口稔大会実行委員長



星野晴信チェアパーソン
より諸注意

メイン競技である、文部科学大臣賞争奪ジュニアでは、スタンダードは吉岡栄太・勝木里桜組(東京都/ファミリアD.S.C.)が、ラテンは藤枝大河・宮澤めぐ組(ブルボンDST)が優勝し文部科学大臣賞に輝きました。全日本選手権ユースのスタンダードはホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組(ブルボンDST)が、ラテンは今西竜矢・大西陽来里組(ブルボンDST)が優勝しました。ジュニア・ユースの競技会は出場できる期間が限られています。今西・大西組は、この大会ではジュニア・ユースを通して初めての優勝となり、大いに喜んでいました。また、ホワイトン組もジュブナイルから出場していたこの大会で、これが最後のユース戦となり、感慨深いものがあるようでした。

途中、選手の体調不良によるアクシデントがあり、競技が一時中断する場面もありましたが、大事には至らず、対処の方法は経験値として今後の運営に生かされることでしょう。来年は会場を横浜に移す予定ですが、1年後、また成長した皆さんとお会いする日を楽しみに、大会は閉幕いたしました。

優勝



文部科学大臣賞争奪ジュニア スタンダード

準優勝



第3位



全日本選手権ユース スタンダード

優勝



ホワイトン 謙心・ホワイトン 夏奈美 組
(ブルボンDST)

準優勝



小林 才時・小西 乙愛 組
(ブルボンDST)

第3位



外村 温仁・田中 夏希 組
(神奈川県/横浜中央キッズクラブ)

第4位 吉岡 栄太・勝木 里桜 組
(東京都/ファミリアD.S.C.)

第5位 山下 晴之・磯部 愛 組
(Jr.AC/ジュニアアスリートクラブ)

第6位 足立 拓海・打越 聖愛 組
(ブルボンDST)

ジュブナイル スタンダード&ラテン

優勝

水田 悠斗・大塚 千栄 組 (京都府/京都ジュニアD.S.C.)



ご来賓



公益財団法人ミズノ
スポーツ振興財団
水野英人副会長



川口市立西中学校
三浦伸之校長



選手宣誓 小林才時・小西乙愛組
(ブルボンDST)

全日本選手権ユース ラテン

優勝



今西 竜矢・大西 陽来里 組
(ブルボンDST)



ホワイトン 謙心・
ホワイトン 夏奈美 組
(ブルボンDST)

第3位



小林 才時・小西 乙愛 組
(ブルボンDST)



第4位 吉岡 栄太・阪井 麗蘭 組 (東京都/ファミリアD.S.C.)

第5位 藤枝 大河・宮澤 めぐ 組 (ブルボンDST)

第6位 西山 雄十・打越 心優 組 (長野県/信長ジュニアアスリートクラブ)

小学生4～6年 スタンダード／ラテン

優勝 藤枝 修也・林 日和 組 (埼玉県)



小学生1～3年 ラテン

優勝 浜田 唯衣・大内 七海 組 (茨城県)



小学生1～3年 スタンダード

優勝 浜田 唯衣・大野 紡季 組 (茨城県)



フリーダンスチーム対抗戦

優勝 スマイルジュニア (新潟県)



浜田唯衣・大野紡季組
(茨城県)



ベスト
マナー賞



武井那優・奥山絹子組
(山梨県)



子供たちと一緒に踊る大西兄妹

1日目ソロ競技



高校生リーダーステップ サンバ



高校生リーダーステップ ワルツ



高校生パートナーステップ サンバ



中学生リーダーステップ サンバ



中学生リーダーステップ ワルツ



高校生パートナーステップ ワルツ

東急不動産ホールディングス BREAKIN' SUMMIT 2024

国立代々木競技場第二体育館

9月7日（土）、国立代々木競技場第二体育館にて「東急不動産ホールディングス BREAKIN' SUMMIT 2024」が公益社団法人日本ダンススポーツ連盟の主催で開催されました。

パリ五輪で盛り上がりを見せたプレイキンですが、ジュニア世代の大規模な大会が国内で開催されていないということで、このイベントは日本から発信する世界最大級のジュニア大会を目指し、国内で初めて開催されました。代々木第二体育館には大型ステージが生まれ、ジャッジにはトップB-BOY、B-GIRLの13名の豪華メンバーが集結し、たくさんの観客の中、世界最大級のジュニア大会に相応しい環境で行われました。

大会はクルーバトル（団体戦）で行われ、年齢も人数も様々なU-15のメンバーで構成された各都道府県の48チームが全国から集まり、予選はリーグ戦で、ベスト16以降はトーナ

メント形式で競われました。決勝はkicks orchestra jr.（石川）とGSB SQUAD（大阪）の戦いとなり、今大会では最少人数である5名のB-BOYで構成されたGSB SQUAD（大阪）が勝利し「BREAKIN' SUMMIT」の初代チャンピオンになりました。

今大会では大人顔負けのハイレベルなパフォーマンスに驚かされましたが、子どもたちがバトルを楽しみ、終われば互いを称え合う姿にプレイキンのカルチャーの素晴らしさを感じました。



優勝したGSB SQUAD（大阪府）
プレゼンターはJDSF 布村会長



熱戦を繰り広げた大型ステージ



大会アンバサダーのShigekixが率いるX11 After Oursによるスペシャルゲストショーケース

2024年度ダンススポーツグランプリ in 富山

2025年WDSFラテン世界選手権代表選考会

全日本選手権ユーススタンダード／全日本選手権シニアⅡラテン／

第76回富山県ダンススポーツ大会／第77回富山県民体育大会ダンススポーツ競技

2024年8月18日(日)／富山市総合体育館

「弁当忘れても傘忘れるな」の言葉どおり、前日の晴天から一変し小雨模様となった富山市総合体育館において、ダンススポーツグランプリin富山は開催されました。大会は笹山治一実行委員長の開会宣言、大西早織チェアパーソンの注意事項で始まり、全日本選手権ユーススタンダードとシニアⅡラテンは午前中に競技が行われました。ユーススタンダードではホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組（ブルボンDST）が、外村温仁・田中夏希組（神奈川県）との接戦を制して優勝し、シニアⅡラテンでは松本武士・宮西朋代組（京都府）が全種目1位で優勝しました。

グランドセレモニーでは大会会長である布村幸彦JDSF会長から「プレイキンはバリオリンピックで大きな成果を
主催者挨拶

上げ、2028年の長野県国スポからダンススポーツが公開競技に採用されることになり、ダンススポーツはスポーツ文化の発展に向けて新しい時代を迎えている。より一層前向きに取り組んでまいりたい」との挨拶がありました。続いて多くのご来賓より祝辞を頂戴した後、照明も落とされ雰囲気も増してグランプリの準決勝が始まりました。

グランプリ・ラテンでは大西大晶・大西咲菜組（富山県）が圧倒的な強さで優勝し、今年開催された全てのグランプリ・ラテンを制覇しました。準優勝には今西竜矢・大西陽来里組（ブルボンDST）が入り、地元富山の太西3兄妹が表彰台に並ぶという光景に、観客からは大きな拍手が送られていました。

来賓ご挨拶



笹山治一実行委員長
(富山県ダンススポーツ連盟理事長)



布村幸彦大会会長
(JDSF会長)



新田八朗富山県知事代理
(杉田聡生活環境文化部長)



藤井裕久大会名誉副会長
(富山市長)



田畑裕明大会名誉顧問
(衆議院議員)



中川忠昭大会顧問
(富山県議会議員)



全日本選手権シニアⅡ ラテン



第3位



準優勝



優勝

宗形隆史・宗形葉子 組
(埼玉県)

西田祐介・西田朋子 組
(東京都)

松本武士・宮西朋代 組
(京都府)



優勝



準優勝



第3位

ホワイトン謙心・ホワイトン
夏奈実 組(ブルボンDST)

外村温仁・田中夏希 組
(神奈川県)

小林才時・小西乙愛 組
(ブルボンDST)

全日本選手権ユース スタンダード



TEAM BRUSHI TOYAMAによるヒップホップ演技発表

JDSF A級戦 スタンダード



優勝

馬淵亮一・馬淵邦美 組(福井県)



2024年 WDSF世界選手権 中国・無錫遠征報告



選手強化部長
竹下 次郎

1. 競技日程

7月16日(火) = WDSF世界選手権ジュニアIIラテン
7月17日(水) = WDSF世界選手権ユーススタンダード
7月18日(木) = WDSF世界選手権アダルトラテン

2. 場所

中華人民共和国 無錫市(上海浦東空港からバスで約3時間)

3. チーム・ジャパン

ジュニアIIラテン：藤枝大河・宮澤めぐ組、
原澤英大・竹之内梨音組

帯同役員：竹下次郎

ユーススタンダード：ホワイトン謙心・夏奈実組、
小林才時・小西乙愛組

帯同役員：大西早織

アダルトラテン：大西大晶・咲菜組、
海老原拳人・タカギルナ組

4. ホテル

World Hotel Grand Juna Wuxi
(ジュニア・アダルト代表選手用オフィシャルホテル)
Holiday Inn Wuxi Taihu New City
(ユース代表選手用オフィシャルホテル)



は、中国主催者のスタッフが出迎えに来ており、帯同役員としても心からほっとする。また、先発隊として、中国現地の情報をユース、アダルトチームに常に配信した。

7月の上海は日本以上に蒸し暑かったが、冷房の効いた心地よいバスに乗り込んで、一路無錫のオフィシャルホテルへ。

約3時間後、World Hotel Grand Juna Wuxiに到着。ロビーで待機していた主催者にエントリを確認し、背番号を受領後、ホテルにチェックイン。現地にボランティアの英語通訳者がいたので、何とか手続きも無事完了。

一旦部屋に荷物を置いて、早速競技会場を視察。10分ほど歩くと太湖国際博覧センターが見えてきた。会場内には入れなかったが、明日は送迎バスを利用せずに、みんなで会場まで歩いていくことになった。今まで帯同役員

には、選手と帯同コーチ以外は、保護者でも入場できない。

厳重な警備を過ぎると、そこはまるで別世界のようなゴージャスな会場。2階席からでもしっかりと全体を見渡すことができ、特に照明が素晴らしい。

④WDSF世界選手権ジュニアIIラテン：

出場国数31カ国 出場組数60組

オープニングセレモニーは、19時30分からであったが、まずは第一ラウンドが12時30分開始。メインアリーナ入場口の壁に、第一ラウンドのヒート表が掲示されたのは、競技開始10分前。すぐにメモし、大河・めぐ組、英大・梨音組に手渡す。

自分たちのヒートNo.を何度も口ずさむ二組。「昨年のリベンジだ！進化した自分たちの踊りを思い切って見せてこい！」と背中を押す。いよいよ世界選手権の開始だ！



左から藤枝大河、宮澤めぐ、竹之内梨音、原澤栄太

⑤WDSF世界選手権ユーススタンダード：

出場国数34カ国 出場組数60組



2階観客席の

踊りを確認しながら、声援している。ユース最後の世界選手権を踊りきる謙心・夏奈実組。チャレンジ精神旺盛な才時・乙愛組。「よし！この調子なら、いける！」

⑥WDSF世界選手権アダルトラテン：

出場国数34カ国 出場組数83組

第一ラウンドのサンバの曲が流れた瞬間から、ボディスピード、フットアクションがリズムとビートと心地よく融合し、どのカップルにも驚かされる。何とレベルの高い選手たちだ！

「大晶、拳人！今こそ自分たちの真価を発揮するチャンスがきたぞ！」



左から大西大晶、大西咲菜、タカギルナ、海老原拳人

⑦未来へつなげて

ジュニア、ユース、アダルト全ての区分で、第二ラウンドに進むことができず、とても厳しい世界選手権となった。技術的にも、体力的にも海外選手との間には高い壁が立ちはだかっていた。しかし、今回の世界の風を受け、自分たちの踊りと体力を改めて見直すチャンスを得ることができた。この壁を乗り越えよう。



静岡県ダンススポーツ連盟 創立35周年記念祝賀会

2024年8月25日(日) / ホテルグランヒルズ静岡



静岡県DS連盟役員一同



金子和裕静岡県DS連盟会長 (JDSF常務理事)の挨拶



布村幸彦JDSF会長



天野一静岡県リクリエーション協会会長

静岡県ダンススポーツ連盟は、1989年(平成元年)6月、静岡県アマチュアスポーツ協会として発足し、東部支部・中部支部・西部支部が誕生しました。

オリンピック・国体参加を見据え、スポーツとしてのダンスの普及を目指し、県選手権・地区大会・市民大会等の競技会を通してダンスの定着を図り、さらには、全国から代表選手が集結する「国民文化祭」(文化庁)・「ねんりんピック」(全国健康福祉祭:厚生労働省)、そして近年は35歳以上の国体と言われる「日本スポーツマスターズ」(日本スポーツ協会)等にも積極的に選手を派遣、優秀な成績を収めています。そしてPD部、ブレイクダンス部も加わって成長、全国47都道府県でも、中心的な役割を担い発展を遂げてきました。

ダンスのジャンルを超えたダンス交流の場となる「静岡ダンコレ」も6回目を迎え、ブレイキン大会も昨年に続いての開催です。本日の式典参加者は400名を超え、盛大な記念祝賀会となりました。

2024年活動方針の中に、35周年記念祝賀会の開催と共に、ジュニア選手の組織化および発掘強化を目的に、「静岡ジュニアアスリートクラブ」と「ジュニア強化選手部」を静岡県ボールルームダンス連盟と共同で設立。将来の国体・オリンピックを目指しプロ・アマの垣根を超えて静岡県の子供達へのダンスへの関心を高めジュニア選手の発掘育成を推進。も含まれています。



ダンスタイム



ジュニア演技発表



林利彦中部日本ボールルームダンス連盟会長(左)、阿南博通静岡県ボールルームダンス連盟会長(右)と、溝口稔静岡県ジュニアアスリートクラブ統括マネージャー(JDSFジュニア育成部長)

創立35周年記念祝賀会は、12時からダンスタイムを挟みサークル演技、トライアル、フォーメーション等が次々に披露され、15時45分から記念式典は始まりました。

冒頭、金子和裕静岡県DS連盟会長は、感謝と御礼の言葉を述べ「オリンピック・国スポ参加はJDSF及び当静岡県連設立時からの悲願でしたが、現実のものとなりダンススポーツの変化は大きく、10年後、20年後を見据えた今後のあり方、持続可能な組織運営が重要です。35年を節目に、新たな発展を目指し将来を見据えたダンススポーツの統括団体として役員一同、鋭意努力し責務を果たしたい」と挨拶がありました。

続いて、布村幸彦JDSF会長は「パリ五輪ブレイキンのAMI選手の歴史的な金メダル、4人の選手の歴史に残るパフォーマンスはオリンピックを大いに盛り上げてくれた。スタンダード、ラテンもオリンピック種目を目指して尽力したい。2028年の長野国スポからはダンススポーツが正式公開競技となる。新たな時代に向けて、更なる発展のために静岡県DS連盟のご支援、ご協力を賜りたい」と挨拶され、ご来賓の祝辞に移りました。

天野一静岡県リクリエーション協会会長は、「リクリエーションを通して生き活きた人生をお送り頂きたい。ダンスのジャンルを超えた静岡ダンコレは多大な貢献をされており、当協会も全力を挙げて応援している。リズム感、集中力、コミュニケーション能力を養えるダンススポーツを更に発展させることを望みます」とご挨拶を頂きました。

林利彦(一社)中部日本ボールルームダンス連盟会長は、ご祝辞に続いて「高校時代、アマチュア時代からずっと大先輩の溝口稔氏から、高齢化社会が進む中であって、若い世代、子供、ジュニアを育成して行きたいので是非、一緒に協力して欲しいとの話を頂戴しました。これも一つのご縁。せめて静岡県だけでも、お互いに協力しあっていきたい」とご挨拶を戴きました。

この後、表彰式となり県連の発展に寄与された方々に金子会長から表彰状が授与されました。

ご来賓 JDSF本部並びに都府県役員



2024年度強化選手演技発表



静岡県ジュニアアスリートクラブ
めざせ! 2028長野国スポ静岡県代表

表彰式

サークル永年表彰 (加盟10年以上)



東部支部



中部支部



西部支部

ジュニアサークル



17年間指導

特別功労者表彰



長年に渡り貢献
特任顧問

功労表彰



長年勤続の理事・監事

感謝状



長年に渡り競技会イベント活動等役員

優秀選手表彰



2023福井日本マスターズ
優勝の丸山夫妻、杉山夫妻

優秀選手特別表彰



最年長現役選手カップル
(山岸夫妻90歳と83歳)

優秀チーム表彰



富士山チーム
(2022ねりんピック神奈川団体準優勝)



ふじのくにダンスアスリートチーム
(2023ねりんピック愛媛団体準優勝)

静岡県年間ランキング表彰



2019～23年オープン1位

ブレイクダンス部演技発表



右は最年長ブレイカー

スペシャルゲスト・デモンストレーション

全日本PDチャンピオン
久保田弓椰・徳野夏海組

2017年カップル結成後も数々の大会で優勝。TEAM YUMIYAを主宰。北海道・大阪・東京や山梨等でもジュニアや一般選手の指導育成に尽力。世界でトップを目指しながら一番大切にしていることは、パフォーマンスで全国の皆様にパワーをお届けすること。「明日も頑張ってる行こう」という気持ちになって頂けるような存在になれば!! これからも精進して参ります!



ディナータイムの乾杯は
岸尾政弘JDSF事務局参与



全日本GDチャンピオン
大西大晶・大西咲菜組

三笠宮杯スタンダード&ラテン、全日本10ダンス選手権等、数々の大会で優勝。日本を代表する兄妹カップル



秀逸な演出でダンスの楽しさを追求し体現する
TEAM YUMIYAの太田歩生・松本京佳組、中島瑠大・岡田愛彩組



静岡県ブレイクダンス部



声援に応えるTEAM YUMIYA3組のフィナーレ

第25回青森県ダンススポーツ大会

2024年7月7日(日) / 青森市はまなす会館
後援：公益財団法人青森県スポーツ協会

青森県便り

青森と言えばねぶた！ねぶた祭りを翌月に控え、開催日の7月7日は七夕。この日を国土交通省では、天の川のイメージから“近代河川制度100周年”の記念日と定め、全国乾麺協同組合連合会は、素麺を天の川に見立てて7月7日を“乾麺・そうめん”の日として記念日に制定しています。

大会は、片桐圭司青森県DS連盟会長の開会の挨拶に続き、遠く兵庫県から参加の選手の皆さんへの歓迎の辞、さらに2026年青森国スポ開催について報告がありました(下記に注記)。そして石岡均チェアパーソンから諸注意があり競技は始まりました。



片桐圭司青森県DS連盟会長 石岡均チェアパーソン 審査員一同

A級戦 スタンダード

千葉英明・千葉順子組(岩手県)



植村和正・植村澄子組(京都府)



佐藤 功・佐藤 明美 組(宮城県)
(シニアIIA級戦St優勝)



第4位 稲垣 浩・伊藤千恵美 組(北海道)
第5位 山下 和男・山下千佳子 組(岩手県)
第6位 井上 芳輝・鈴木 直美 組(青森県)

A級戦 ラテン

古川 勲・鈴木陽子組(福島県)



佐藤 誠・佐藤 美喜子組(岩手県)



三津谷 博光・大水 てい子 組(青森県)

JDSF B級戦 スタンダード

優勝 福士 博司・福士 清子 組(北海道)



B級戦 ラテン

優勝 菅原 亜衣菜・菅原 莉愛奈 組(北海道)



第4位 成田 裕一・斎藤 順子 組(青森県)
第5位 吉田準之助・吉田 真理 組(岩手県)
第6位 三上 等・出町 敬子 組(青森県)



キラ星み~つけた!

JDSF B級戦 ラテン優勝 菅原亜衣菜(姉13歳・中学2年) 菅原莉愛奈(妹11歳・小学6年) の姉妹ペア

「ダンスを始めて4年位です。コロナ禍にあって学校行事などが制限されている中、運動不足になるのでおばあちゃんにスタジオに連れて行ってもらったのがきっかけでダンスを始めました。好きな種目は二人共にチャチャチャ。練習は1時間、月に2回から5回くらい。目標は、今は4種目しか踊れないので、ジャイブを覚えたら亜衣菜が中学生のうちにジュニアの競技会に出場して良い成績を残したいです。Team YUMIYA HOKKAIDOに所属して、久保田弓椰、徳野夏海先生にレッスンを受けています」



優勝を喜ぶ、おばあちゃん(工藤恵美子さん)とリーダーの福永茂樹さんと一緒に

福永茂樹・工藤恵美子組もA級戦7位と活躍



C級戦 スタンダード 1・2

優勝 近江 洋一・近江 久美子 組 (青森県)



スタンダード1 (W/T/Q)



スタンダード2 (W/T/F)

C級戦 ラテン 1・2

優勝 谷藤 英徳・高山 恵子 組 (岩手県)



ラテン1 (S/C/R)



ラテン2 (C/R/P)

D級戦 スタンダード 1・2

優勝 升屋 一美・圓井 たづ子 組 (秋田県)



スタンダード1 (W/Q)



スタンダード2 (T/F)

D級戦 ラテン

優勝 柳 稔・栗橋 眞利子 組 (青森県)



シニアⅡ A級戦 スタンダード



シニアⅡ A級戦 ラテン

優勝 柏葉 勝広・小田 敏子 組 (岩手県)



シニアⅢA級戦 スタンダード



優勝 板垣 雅道・工藤 ひとえ 組 (青森県)

シニアⅣA級戦 スタンダード



シニアⅤ ブロックランキングスタンダード

七利 稔博・嶋田 恵美子 組 (茨城県)

優勝



シニアⅣ A級戦 ラテン

優勝 三上 等・出町 敬子 組 (青森県)



★2026青森国スポ

2024年から、国民体育大会が国民スポーツ大会に名称変更され、国体が「国スポ」に生まれ変わります。青森国スポは、2026年に開催され、デモンストラーションスポーツ競技として6月14日、会場も同じ「はまなす会館」において、スタンダード&ラテンの各競技種目の開催が決定。さらに7月26日、青森県DS連盟ブレイクダンス部発足により、パリ五輪種目となったブレイキン競技が追加されることも決定しました。

ホームページは下記です。

<https://aomorikokuspo2026.pref.aomori.lg.jp/kyougi/#demosupo>



青の煌めき
あomorikokuspo

デモスポガイドブックに
ダンススポーツも掲載

ダンススポーツ競技大会

(WDSF世界シニアII St・III・V大会 日本代表選考会)

2024年9月1日(日) / 長崎県立総合体育館(メインアリーナ)



©長崎県 [がんばくんとらんぱちゃん]

楽しもう 心のままに その喜びを 輝きを 長崎から全国へ

台風10号が鹿児島県に上陸し、西日本を縦断する予報により8月28日から西日本や東海を中心に道路の閉鎖、新幹線運休、飛行機の欠航など交通機関への影響により一部欠場者も見られましたが、東京からの航空便は前日の全便欠航から一転し、朝一番から再開され、大会当日の長崎は晴天に恵まれ素晴らしい大会となりました。

開催にあたり、金子和裕実行委員長 (JDSF常務理事) は「台風の影響のなか、全国から多くのマスターズアスリートに集まっていただき、ありがとうございます」と開会宣言。市原則之JDSF副会長 (元JOC副会長) は、「22都府県からアスリートが一堂に会しました。スポーツ精神に則り、三つのF、即ちフェアプレイ、ファイティングスピリッツ、そしてフレンドシップ、三つのFで、全国の仲間との良い思い出を作ってください」と挨拶。主催県の青木信之長崎県DS連盟会長は、「台風で心配しましたが、本日無事に開催出来、感無量です」と挨拶がありました。

ご来賓の伊達良弘長崎県文化観光国際部長は、県知事の祝辞を代読。「県は“長崎の未来をスポーツで創る”を基本理念に、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで、健康な身体や生きがいをつくり、感動や活力を与え、賑わいや豊かさを生み出すことを目指します」。そして浅田まゆみ県議会議員 (長崎県DS連盟顧問) からは「パリ五輪でブレイキンの大活躍を拝見しました。本大会でも、生き活きたとしたダンススポーツを拝見したい。そして、全国からご来場いただいた皆様方には、異国情緒豊かな長崎を存分にお楽しみください」とご祝辞を頂きました。



平和祈念像 (長崎市平和公園) 今年のノーベル平和賞に10月11日日本原水爆被害者団体協議会(被団協)が選ばれました。



前列、左から、塩塚宣博長崎市民生活部スポーツ振興課長、伊達良弘長崎県文化観光国際部長、浅田まゆみ県議会議員、市原則之JDSF副会長。後列左から、金子和裕JDSF常務理事、青木信之長崎県DS連盟会長

マスターズ戦

シニアI スタンダード

渡邊 寛也・桜井有樹子組(東京都)

組んでまだ1年ですが、シニアIIスタンダードとダブル優勝できました。シニアIIは世界選手権日本代表選考会なので、外人に負けないようなスタミナを付けて日本代表として海外でも頑張りたいです!



シニアI スタンダード表彰式



第2位
シニアII
x2位

立憲民主党の現職衆議院議員、ご多忙のなか、スタンダードとラテン合計4競技に出場。全てのクラスで決勝入りを果たす大活躍でした。



川内 博史・榎本由紀子組 (鹿児島県)

シニアI ラテン



白井 佑治・宮永 梨多組(熊本県)

実はシニアIIのカップルですが。海外の大会にも挑戦したいと思っています。シニア世界選手権目指して、三笠宮杯の全日本シニアI選手権でもスタンダードとラテン共に頑張ります

「精一杯頑張ります」 永瀬英雄・池田真由美組の選手宣誓



シニアI ラテン表彰式

シニアⅡ スタンダード



清水 弘隆・陶山 美穂 組(東京都)



第2位



優勝

シニアⅡ ラテン

宗形 隆史・宗形 葉子 組(埼玉県)



シニアⅢ スタンダード



優勝

徳野 一也・下河邊衣津子 組(福岡県)



第2位

長谷川敬太・西村みちる 組(東京都)



シニアⅢ ラテン



優勝

高橋 和則・高橋 京子 組(東京都)



第2位

大矢部廣昭・中川 弘美 組(大阪府)



シニアⅣ スタンダード

岡田 浩・岡田 素子 組(熊本県)



優勝

シニアⅣ ラテン

杉山 典克・杉山 美子 組(静岡県)



優勝



シニアⅤ スタンダード

岩瀬 純夫・岩瀬恵里子 組(東京都)



優勝

シニアⅤ ラテン

萩原 憲・小野百合子 組(神奈川県)



優勝



B級戦 スタンダード表彰式



B級戦 ラテン表彰式



C級戦 スタンダード表彰式



C級戦 ラテン表彰式



D級戦 スタンダード表彰式



D級戦 ラテン表彰式

「奇跡の人と呼ばれて」

京都府ダンススポーツ連盟理事 谷口小夜子

今年も京都グランプリの開催、頑張りました！
(ご主人の主嘉さんと)



京都在住の谷口小夜子です。リーダーは夫の谷口主嘉(かずよし)、JDSFでは京都府ダンススポーツ連盟会長をはじめ、さまざまな役職を務めており、京都の主催競技会では、主人が大会会長、私はステマネや司会などでお世話させていただくことが多いです。

私たちは異なる大学のダンス部に所属していましたが、運命の絆で結ばれ、主人の実家の京都に嫁ぎ、三人の息子の子育てに追われ、ダンスには全く触れない生活をしていました。「いつか必ず二人で競技ダンスをしようね」という婚約時の約束どおり、20年以上のブランクを経て2002年に競技を始めました。

そこからは、研究熱心にして努力家の主人に引きずられ、ダンスを再び習い始めて8カ月でスタンダードA級を決め、全国の方々とも友達になり、世界選手権にも何度も挑戦し、2013年には「シニアⅢ・世界ランキング5位」をいただくことができました。その時期が私の一番踊っていた時で、そこから股関節が徐々に痛くなっていきました。もともと私は先天性の変形性股関節症で、お医者様からは「小さい時、ちゃんと歩けていましたか?」と言われ、主人からも「小夜子は出会った時から歩き方が変だったよ」と悲しいことも言われていました。股関節の痛みは日を迫うごとに酷くなり、痛み止めも効かず、練習もできない状態になり、試合に出ると夜は痛みで眠れないほど酷くなりました。

ついに2018年に現役競技選手引退と人工股関節手術を決め、毎年参戦していた12月の沖縄ダンススポーツ競技会で最後のオナーダンスを踊らせていただきました。その時は、同じ練習場や試合仲間、仲良くなった沖縄の友人たちも一緒に泣いてくださり、最後に胴上げや記念写真も沢山の方が集まり、心から感謝の気持ちで一杯でした。同時に、手術をしても、もうダンスは踊れないかもしれないと考え、「これが最後の踊りになるのでは?」と涙が止まりませんでした。

2019年、審判員になるために講習と試験や研修を受け、9月と11月には人工股関節の手術をしました。全身麻酔は生まれて初めての経験で、目覚めないこともあるのではないかと考え、主人に今までのお礼とハグをして手術室に入りました。主治医のI先生との出



孫たちと一緒に踊った2014年9月、岡山県で開催された「桃太郎戦」



孫も大きくなりました



復帰戦の2023年日本マスターズ福井大会「シニアⅣ St」優勝



日本スポーツマスターズ2024長崎大会記念事業「シニアⅣ La」で3位入賞

会いも運命的で、腕も性格も素晴らしい先生に手術をしていただいたことがダンス復帰への道につながったのだと思います。手術後、主人はヨガの先生とダンスコーチャーに聞きながら、練習場でパフォーマンストレーニング(PTレ)を私のために始めました。週3~4回、筋肉がすべて落ちてしまった私のレベルに合わせて、まずは立つことから始めました(このPTレは、今では全国で150人ほどのメンバーにネット配信をしています)。

2020年からは、主人と審判員をさせていただきました。選手の方とは会場で話せませんでした。いつも二人で試合会場に行き、主人が審判で立つ時、私は司会のアドバイスをし、私が審判で立つときは主人が運営をお手伝いして、選手とは違う世界で3年半勉強させていただきました。その間もPTレは主治医とも相談しながら難易度を上げ、筋力をつけていきました。様子を見つつも、ついに2023年6月、審判員資格を返上し現役復帰を決めることとなりましたが、まだ三種目しか踊れなかったため、「日本スポーツマスターズ2023福井大会」ではシニアⅣに申し込みました。競技会場では仲間から沢山声をかけていただき、私たちの現役復帰と一緒に喜んでくれましたが、私は無事に踊れるか不安でたまりませんでした。後で聞いた話ですが、踊り始めた私の顔は緊張で怖い顔をしていたようです。

一次予選のワルツを踊り始めた時にはもう涙が出てきて、友人たちからの応援にもまた涙があふれてきました。何とか一次予選を踊り切ったものの、フロアを降りるたびに踊れる喜びに感動しながら決勝戦も踊らせていただき、思いもかけず優勝できたことは、まるで夢のようでした。手術から3年8カ月のことでした。

杖をつき、びっこを引いて踊っていた私を知っている方々は皆「痛くないの?」と聞きます。「よく戻ってくれた。同じような人の希望になる」と何人もの方に言われました。自分が踊りたくて、主人にももう一度競技会で踊ってもらいたくて、その

ためにPTレで頑張ってきました。人工股関節手術をした方は、怖くてあまり動かさず固まってしまうことが多いので、医師と相談しながら積極的に動かしていくことが大切だと思います。このPTレがなかったら現役復帰はなかったと思います。

この福井大会からスタートした競技でしたが、最後まで踊れなかったのがクイックステップでした。主治医からは「絶対に転ばないでね。人工股関節は割れないけど周りの自分の骨が割れて大手術になるから!」と言われていたので、女性のバックが多い速いステップは、怖さが先に立ってベーシックすら踏めない状態が続きました。

思い切って出た愛知のA級スタンダードでしたが、決勝戦では筋力が追いつかず、主人の足に引っかけて体が浮いて転びそうになり、もう怖くて頭が真っ白になった瞬間、主人が抱え上げて支えてくれました。その時「ああ、主人が絶対に私を守ってくれるんだ!」と安心感が湧き、それからクイックステップも踊れるようになりました。

そこからは月に1～2回程度スタンダードA級を踊り、7月には14・15日と復帰後初の二日連続試合にも挑戦し、ラテン・スタンダードを踊り、両日ともスタンダードでオナーダンスを踊らせていただ

きました。PTレのおかげで体力もつき、後は気力だけですが、ここまで復活できたのは本当に幸せなことです。

こんな私を見て医療関係者も驚かれます。「希望と勇気もらえる!」と私を沢山の方が「奇跡の人」と呼びます。最近、決勝戦やオナーダンスの前にはフロアで主人とハグします。これは再びフロアに立てた心からの喜びです。そして、怖くて手術から逃げていましたが、「手術後の練習の仕方次第で、また踊れるようになるよ!」という、同じ悩みを持つ方へのエールです。これからも「夫婦の人生の彩り」として、体が動かなくなるまで競技ダンスを続けていきたいと思っています。



2018年12月、サントピア沖縄にて友人たちと

ウィーンで開催されたWDSFシニアIVスタンダード世界選手権に、今年も日本勢7組の選手と参加いたしました。 松村健樹・松村栄子

今回は早めに現地に入り、主催者に紹介されたダンス教室で3日間調整でき、体調も比較的良好な状態で試合に臨めました。この大会は「Viena Dance Concourse」という名称で、欧州各国からシニア選手が4日間で延べ1000組余り参加する大きな大会です。大会は歴史的建造物、ウィーン市庁舎で開かれ、競技会場は広大な建物内最大のホール、Festival Hallで天井には豪華なシャンデリア、壁には豪華な彫刻がなされ、宮殿のような雰囲気がダンス競技には最高の環境でした。このような建造物で競技ダンス大会を開催できる主催者の力量は素晴らしいと思いました。

今回、3年目の挑戦で表彰台に上ることができ、なにより日の丸を会場に掲げられたことは感激でした。妻と競技ダンスを始めて40数年、これまで1年も休まず続けてきたことが、報われた気がしました。WDSF世界選手権は、現在は欧州内で実施されることが多く、選手、審査員とも欧州勢が

ほとんどなので、試合は完全アウェーであり、アジアからほとと参加して、いくら実力があっても表彰台に上がるのは非常に困難であることは実感しておりました。私達も三回目(初年度は準決勝、2年目4位)にしてようやく表彰台に上がれました。優勝は地元オーストリアの選手で打破は難しかったです。決勝は全身全霊、気合を込めて踊り、なんとか2位に食い込むことができました。この結果が全国のシニア選手の励みになれば嬉しいです。ちなみに過去、WDSF世界選手権で日本人が表彰台に上がったのは10年ぶり、銀メダルは全カテゴリー通じて初めてのこのようです。

健康で、仕事とも両立しながら、目標をもって生活が送れることを幸せに思います。共に戦った6組の選手、シニア選手会をはじめ、JDSF国際部、サポートいただきましたすべての方々に心より感謝申し上げます。



完全アウェーのなか、
3度目の挑戦で見事、準優勝に輝いた松村組
気合を込めたダンスを披露!



共に戦った6組のシニア選手と記念撮影



ダンススポーツグランプリ in 静岡2024

7月14日(日) / グランシップ大ホール「海」

会場のグランシップ (GRANSHIP) は、「文化創造と交流の拠点」として静岡県が設置する複合文化施設。設置の目的は、学術、文化及び芸術の振興並びに国内外との交流を図ることであり、大規模コンベンションや各種学術会議等を通じ、文化振興の一翼を担っています。新たな文化の創造拠点として、人、もの、文化、情報が交わり、人々が集い憩う“県民のオアシス”となること。その会場大ホールにおいて、ダンススポーツの祭典、静岡グランプリが第31回を迎え盛大に開催されました。



金子和裕静岡県DS連盟会長
(JDSF常務理事)

静岡県DS連盟創立35周年記念式典を1カ月後に控えていますが、今大会は1993年(平成5年)に第1回を開催し、以後欠かすことなく今年もトップ選手を多数迎え開催することが出来ました。関係者各位に御礼申し上げます。そして素晴らしいダンスを観て4年後に公開競技となる国スポを目指す子供たちの励みになることを期待します



溝口稔県連特別顧問 (大会チェアパーソン) 杉山典克県連副会長 (大会統括マネージャー)

グランプリ スタンド

準決勝・決勝を通して30点以上(40点満点)の絶対評価をマークしたのは大西組のみ、それも全種目で獲得。2位以下に大差をつけて優勝。静岡グランプリでは、2019年優勝(St)以後、スタンダード、ラテンに関わらず連続優勝を飾り(2020年はコロナ禍で中止)、5連覇を達成しました。



優勝

大西 大晶・大西 咲菜組
(富山県)



準優勝

中村 エドワード漸・
中村 エリザベス永理組
(東京都)



第3位

倉科 翔・伊藤 梨乃組 (長野県)



第4位

ホワイトン 謙心・
ホワイトン 夏奈実組
(ブルボンDST)



優勝

中島 瑠大・岡田 愛彩組 (北海道)



準優勝

境 康太郎・境 楓組 (沖縄県)



第6位

太田 歩生・松本 京佳組
(北海道)



第5位

小林 才時・小西 乙愛組
(ブルボンDST)



第3位

白井 翼・椎葉 陽子組 (福岡県)

JDSF A級戦 ラテン



全日本ユース選手権ユース ラテン



今西 竜矢・大西 陽来里 組
(ブルボンDST)



ホワイトン 謙心・
ホワイトン 夏奈実 組
(ブルボンDST)

小林才時・小西乙愛組
(ブルボンDST)

吉岡栄太・阪井麗蘭組
(東京都)



第3位



第5位

南山 雄大・打越 心優 組 (長野県)



第4位



第6位

ヴァグネル 悠樹・和嶋 凜々愛 組
(石川県)

JDSF B級戦 スタンダード



鈴木 伶音・渡辺 華凜 組
(ブルボンDST)



柁嶋 航也・平野 瑛子 組
(千葉県)

JDSF B級戦 ラテン



亀谷 享・亀谷 智美 組
(沖縄県) (シニアII A級La優勝)



井口 健太郎・
井口 茂絵美 組 (神奈川県)



第3位

佐々木裕一・下井田裕子組
(神奈川県)



第3位

斉藤 崇幸・玉井 絵里子 組
(北海道)



シニアIII B級戦 スタンダード



西嶋 一人・小林 晶子 組
(キャッツアイ)
(シニアIII A級St優勝)



シニアII A級戦 ラテン



JDSF C級戦 スタンダード



JDSF C級戦 ラテン



シニアIII A級戦 ラテン



大河原 敏朗・小菅 睦 組
(DCアリス)

シニアIII A級戦 スタンダード



JDSF D級戦 スタンダード



JDSF D級戦 ラテン



パリオリンピック2024 ブレイキン報告

JDSFブレイクダンス本部選手強化部長
渡邊 将広
(JOCハイパフォーマンスディレクター)



2020年12月8日に開かれたIOC総会において世界ダンススポーツ連盟(WDSF)が管轄するダンススポーツ競技であるBREAKING(ブレイキン)がパリ五輪の追加種目に決定し、日本ダンススポーツ連盟(JDSF)は2020年12月14日(月)に記者会見を行い、パリオリンピック2024への道(Road to Paris)は始まりました。オリンピック夢の舞台は、8月9・10日に実現しました。

女子(B-Girl) : 8月9日開催

オリンピック初代金メダル、表彰台中央に立つ! オリンピック初代王者となり歴史に名を刻む! Ami(湯浅亜実)にとってのRoad to Parisは、金メダルという最高の結果で締め括られた。

Amiは準々決勝でフランスのSYSSYに3-0と圧勝。AyumiはオランダのINDIAに1-2で惜しくも敗れTOP8敗退。強豪を相手にあと一歩及ばなかった。Amiは準決勝でAyumiを破った強豪INDIAと対決。Amiは、決勝で使おうと用意していた



Ayumi(福島あゆみ)は21歳の夏、ブレイキンを始めてわずか3週間後のデビュー戦で完敗。それから20年。41歳は語る「ダンスにゴールはない。だから、ずっと楽しい」



Ami(湯浅亜実) 喜びの勝利



金メダルAmi(湯浅亜実)、銀メダルNICKA(ドミニカ・バネビチ、リトアニア)、銅メダル671(劉 清漪、中国)



Ami(湯浅亜実) 金メダル決定、歓喜の瞬間! 福島梨絵(JOCナショナルコーチ)と抱き合う。右隣は石川勝之(JOCナショナルコーチ、JDSFブレイクダンス本部長)、その右隣は伊佐和敏(JOCTレーナー)、左隣は筆者)

ムーブを急遽披露し、この大一番に2-1で勝利し決勝進出を決めた。決勝の相手は、昨年の世界選手権で敗れたリトアニアのNICKA。Amiは決勝でも安定的にハイクオリティなムーブ、スキル技だけでなく、ムーブ全体の流れやシルエットも独創的なスタイルを披露し3-0で勝利した。



日本選手応援団

男子(B-Boy)：8月10日開催

日本代表のShigekix（半井重幸）とHiro10（大能寛飛）の二人は奇しくも同じグループAに入り厳しい予選となった。B-Boy開幕戦、Shigekixとアメリカ代表のVICTORのバトルは、大接戦の末に1-1のドローで終了。VICTORはその後のバトルで全てのラウンドを獲得して予選を1位通過。Shigekixは中国のLITHE-INGとのバトルを引き分けたが、Hiro10には2-0で勝利し、2位で決勝トーナメント進出を決めた。

Shigekixは準々決勝で、世界王者オランダのMENNOとの対決も3-0で完勝。準決勝へ駒を進めた。準決勝は過去に世界大会の上位を何度も争ったことがあるカナダのPHIL WIZARD。技の完成度やクオリティで攻めるShigekixに対して、PHIL WIZARDは自身の感性を独特の表現でムーブに落とし込み、難易度の高い技もこなす。このバトルではPHIL WIZARDが評価されShigekixは準決勝敗退となった。

Shigekixは3位決定戦で、この日の開幕戦で対戦したVICTORと再戦。最後はVICTORに敗れメダル獲得まであと一步だったが、Shigekixは予選からの全15ラウンドを踊り切り、笑顔でオリンピックを締め括った。優勝に輝いたのはカナダのPHIL WIZARD(フィリップ・キム)選手だった。

パリオリンピック2024への道(Road to Paris)、オリンピック夢のバトルは8月9・10日に現実のものになりました。JDSFプレイキンは、これから新たな一步を踏み出します。皆様方のご支援に厚く御礼申し上げます。

(協力：ブレイクダンス本部PRパートナー FINEPLAY)



Shigekix（半井重幸）はRoad to Parisを笑顔で締め括った。「僕に絶対必要な挑戦だったし、人としてもダンサーとしても成長できたんじゃないかと思う！」



オリンピックの大舞台に立ち大歓声を一身に浴びたHiro10（大能寛飛）の目には涙



プレイキン日本代表 (Ami, Shigekix, Hiro10, Ayumi)



金メダルを祝う！布村会長（中央）ほかパリに駆け付けた応援団



ケンタロー（白井健太郎）：テレビ解説で絶妙なトークを連発し番組を大いに盛り上げた。「Let's go! Let's go! AMI~この1本、やったれ!」「ヘイ! 入ってますよ、いいっすよ!」解説の立場でもエールを送り、時には独特な表現でパフォーマンスを称えた。



大きな感動と大きな愛をありがとうございます!

(TEAM JAPANブレイキン日本代表: Ami, Ayumi, Hiro10, Shigekix)

スポーツ最高峰の五輪が示した「カルチャー」 (たかがブレイキン されどブレイキン!)

「ブレイキンがスポーツになり8年。長い間、右も左も分からない状態から始めて、本当に沢山のことを学びました。その中で一つもブレなかったことは、『例えオリンピックがあっても無くても、僕らの進む道は変わらない』ということ。オリンピックがあったことで、僕たちがブレイキンをさらに発信できたのは、感謝と共にホントに価値のあるものでした。

オリンピックムーブメントになって組織として動き出してから、色々な事をやらなければいけません。型にはめられなくて、世の中に対してのカウンターパンチで始めたブレイキンだったのに、逆にモットモット世の中の型にはめられていきました(笑)。しかしこの経験は、これからの社会での活動にとっても為になりました。物事を大きく、そして周りから応援される団体や組織になるためには、非常に大切なことだったと思います。

カルチャーとしてのブレイキンと、スポーツとしてのブレイキンは未だに賛否両論がありますが、カルチャーを大切にすることは、先人が作ってきたものをしっかり重んじ、次に繋げて発展させていくことではないかと思っています。先人が作ってきたものを決して忘れてはいけません。常に次に繋げていくのです。それがスポーツになっても壊れないようにすれば、スポーツとしてのブレイキンも認められて、カルチャーとスポーツの両面でさらに大きく発展していくのだと思います。実際にスポーツのブレイキンをやってきて、カルチャーが死んだ、なんてことは無かったと思います。『ブレイキンはブレイキン』でした! 壊れるものは何も無かった!

日本中が、世界中がこのムーブメントに乗ってさらに盛り上げようと、沢山の人が努力をしていましたし、今も変わらずしています。歴史から読み取ると分かることですが、流行りで終わらせないために一致団結をし、コミュニケーションを取り、伝統を守り、新しい物事を作り、ブレイキンで出来ることを様々な角度で試行錯誤し、さらにそれを継続出来るような何かをクリエイティブして発信しています。これはオリンピック種目になったからやっているのではな

JDSF理事ブレイクダンス本部長
石川 勝之 (KATSU ONE)



く、ただ皆がこのブレイキンのカルチャーを愛しているからこそ発展させていきたいのです。『僕らの好きなブレイキンを盛り上げたい!』想いはすごくシンプルです。なぜこのブレイキンが素晴らしいのかはここで書くと更に膨大な文章になってしまうので、皆さんに調べてもらいたいと思います。そして直接お会いして、いつか皆さんに話したいです。

最後に、『一生懸命何か打ち込むこと』の大切さ。それはブレイキンでなくても何でも良いと思います。僕はたまたまブレイキンというものに会い、人生が豊かになりました。一生懸命何か打ち込むものがある人は、同じようにそこから沢山の事を学び、世界中で沢山の出会いがあるでしょう。それらの経験があなたの人生を豊かにしてくれると思うんです。やってやってやりまくる! 自分では努力だと思えないくらい楽しく没頭できる“何か”を見つけてほしい。探し方が分からないという人がいれば、僕はまずはB-BOYとしてブレイキンをお勧めします! 本気でやってみて違うと感じれば、また次の事を探せばいいと思います。思い切って何でもやってみましょう! 一回しかない人生を思う存分楽しみましょう! 人生色々あっておもしろーじゃねえか~! 万歳!!



パリオリンピックTEAM JAPAN解団式&報告会



パリオリンピックにおいて新種目として最も注目を浴び、深夜から明け方に掛けてテレビの前に釘付けの方も多かったのではないのでしょうか！東京五輪2020の追加競技として行われたアーバンスポーツ（都市型スポーツ）と言われるスケートボードやスポーツクライミング、そしてパリオリンピックで新種目として採用されたブレイキン。オリンピックの新時代を切り開く舞台となり、ブレイキンの感動のパフォーマンスは新しいスポーツの台風の目となり、観客席のみならずテレビの前でも興奮の嵐が巻き起こり、ブレイキンの認知度は一気にアップしました。

選手団は8月13日に帰国、翌14日にはTEAM JAPANの解団式と報告会がグランドプリンスホテル新高輪「飛天の間」において開催されました。

(JDSF広報部相談役 神宮周二)

解団式(11時~12時)

国歌斉唱の後、三屋裕子JOC副会長が登壇。「8月11日に開幕したパリオリンピックは17日間の幕を閉じ、TEAM JAPANは全員無事に帰国し解団式を迎えることができました。選手が真摯に競技に挑む姿は国民に夢と希望をもたらし、深い感銘をお届けできたと確信します！」そして、国民の皆様と関係各位に、敬意と感謝のご挨拶がありました。

尾縣貢団長（JOC専務理事）は、「TEAM JAPANコンセ

プトとして『一步、踏み出す勇気を~共に更なる高みへ~』を設定、本番に臨み、国外でのオリンピックとしては最高の金20・銀12・銅13の合計45個のメダルを獲得、115の入賞を果たしました。この結果は、各競技団体の日頃の努力、そして日本政府を含む関係団体のご支援の賜物です」と報告がありました。そして、故秩父宮殿下よりご下賜の団旗が江村旗手、半井旗手より尾縣団長に、そして三屋副会長に返還され、尾縣団長がTEAM JAPANの解団を宣言しました。

報告会(16時~17時半)

三屋裕子JOC副会長とTEAM JAPANの尾縣貢団長から、死力を尽くした選手を称え、スタッフや関係者にも労いの言葉が贈られました。そしてTEAM JAPANの活躍に特に貢献した個人、団体に授与される団長賞は、レスリングチーム、総合馬術団体、そして日本選手団の旗手を務めた男子ブレイキンの半井重幸（SHIGEKIX）と女子フェンシングの江村選手に贈られました。その後の報告会は、立食パーティ形式で行われ、パリオリンピックTEAM JAPANを囲み、招待者との歓談の場となりました。

パリ五輪2024TEAM JAPANの公式応援テーマソングは、JDSFダンスアンバサダーも務める三浦大知氏が書き下ろした「心拍音」。ご本人が登壇し選手団と共に応援歌が披露されました。



コシノジュンコ氏(デザイナー)を中央にお迎えして



ずっしりと重い輝く金メダル(重さ529g、直径85ミリ、厚さ9.2ミリ)と自分で編んだ毛糸の金メダル入れを披露するAmi選手



右から山口剛競技本部長、布村幸彦会長、Ami(湯浅亜実)選手、神宮周二広報部相談役、宮崎多加子同顧問



Shigekix(半井重幸 中央)と共に旗手を務めた江村美咲選手(右端、フェンシング銅メダル)



最高の料理、飲み物、デザート、フルーツで盛り上がりました

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ



① 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス
第113号 (Autumn)
令和6年11月発行

- 発行人／中道俊之(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
- 編集人／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
- 編集長／興水洋一(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部長)
- 企画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
- 発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
<https://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。